

タビルミネ

たびるみね
TABI-LUMINE



好き、と出逢いに。

中之条

Nakanojo, Gunma

初めて中之条を訪れて、出逢ったもの。

くねくねと伸びる山道を抜けると
見えてくる赤い屋根の山小屋、
ビロードのような緑のコケに、
見たこともない色とりどりの高山植物、
おいしいごはんとレトロな温泉街……。

もうひとつ出逢ったのは、
そこで暮らす、すてきな人たち。

好きなものに囲まれて暮らし、
思いついたらすぐアイデアを形にし、
映画やアートと日々向き合い、
その土地ならではの
季節の草花や食材を上手に活かす。

自分の“好き”と、そこで暮らす人たちの
“好き”に出逢える場所。
さあ、わたしらしく、中之条へ旅をしよう。



芳ヶ平ヒュッテ

草津白根山と芳ヶ平湿原を一望する、
上信越高原国立公園内に建つ山小屋。
夏は登山やキャンプ、冬はスキーを
楽しむ人のための休憩・宿泊所とし
て、通年で営業を行っている。

群馬県吾妻郡草津町甲464-1
☎090-4060-6855（衛星電話）



好きなものたちに囲まれて。

国道最高地点の渋峠から1時間
ほど山道を下ると、かわいらしい
赤い屋根が見えてくる。迎えてく
れたのは、新堀研二さんと弘子さ
ん、そして4匹の愛犬たち。

「景色が開けていて気持ちいいで
しょう？ 昔、僕が住んでいたカ
ナダみたいな雰囲気。管理人にな
ると決まったときは、夢ってのは
叶うんだな、と思いましたね」

「私、じつは山小屋に泊まったこ
とがないんです（笑）。でも、私
たちは私たちのやり方で、ここで
稼ごうじゃなくて、ここを楽しも
うと思っただけだから、20年も
続いているんでしょうね」

部屋の中には、ランプに絵画、
観葉植物から料理道具に至るまで、
二人のお気に入りが入りすぎると並ぶ。
料理もレトルトは使わず、すべて
手づくり。シンプルな調理法でも

おいしくいただけるよう、食材に
もこだわっている。

二人に芳ヶ平の魅力をたずねる
と、「人がいないこと」と声を揃
える。東京から日帰りできるので、
無理に泊まることはない。それで
も一度来ると感激して、毎年足を
運びたくなってしまう。

「長い人は、もう17、18年通っ
て、本当の家族のよう。お客さ
んが、自分の別荘に行く感覚で来
てくれたらいいなと思って」

「お父さんはいつも、ここで薪を
割りながらぼっくり死にたいって
言うんです。でも私は、え、もう
やめちゃったの？ って惜しまれ
るくらいがいいかな（笑）」

好きなものに囲まれて、好きな
ものを出す。無理をせず、お客さ
んと時間を共有する。どの山小屋
とも違う世界が、ここにはある。



シャワー完備で水洗トイレも清潔、蛇口をひねればお湯が出るし、冷たい生ビールまで味わえる。研二さんいわく「快適な文化生活」。近くにあるキャンプ場では、マットがいらないほどふかふかの草の上に寝転び、満天の星空が楽しめる。

新しい風を受け入れ、交流する。

中之条で初めて牛肉や豚肉を扱い、昭和9年の陸軍大演習の際には皇族の閑院宮様が宿泊したことで知られる。明治から続く料理屋、金幸の4代目が金井馨さん。

「アイデアを考えるのは嫌いじゃないですね。このへんの人間は、頼まれると断れない人ばかり。もう少し人を疑ったほうがいいよ、って言うてるんですけど（笑）」

「町を訪れる人のためにランチがつかれないか？」と相談されれば、「真田道弁当」や「真田くのいち御膳」を考案。また、2019

年で7回目を迎える「中之条ビエンナーレ」の参加アーティストとも交流が深く、「何か目玉になるものを」と建築家に公衆トイレ（P17参照）の設計を依頼したり、商店会のイラストマップを描いてもらった。

「せっかくの機会ですから、新しい風を受け入れたい。すごいなっ

て感じる作品があれば刺激になりますし、外の人が町をどう見ているかも知ることができる。なにより作家さんと一杯飲んで、交流するのは楽しいですから」

町に作品を置くことで人の流れが変わるのを実感している、という金井さん。今年のビエンナーレでは、店近くのお寺の参道を、地元

の学生がつくった風鈴で飾りたいと考えている。

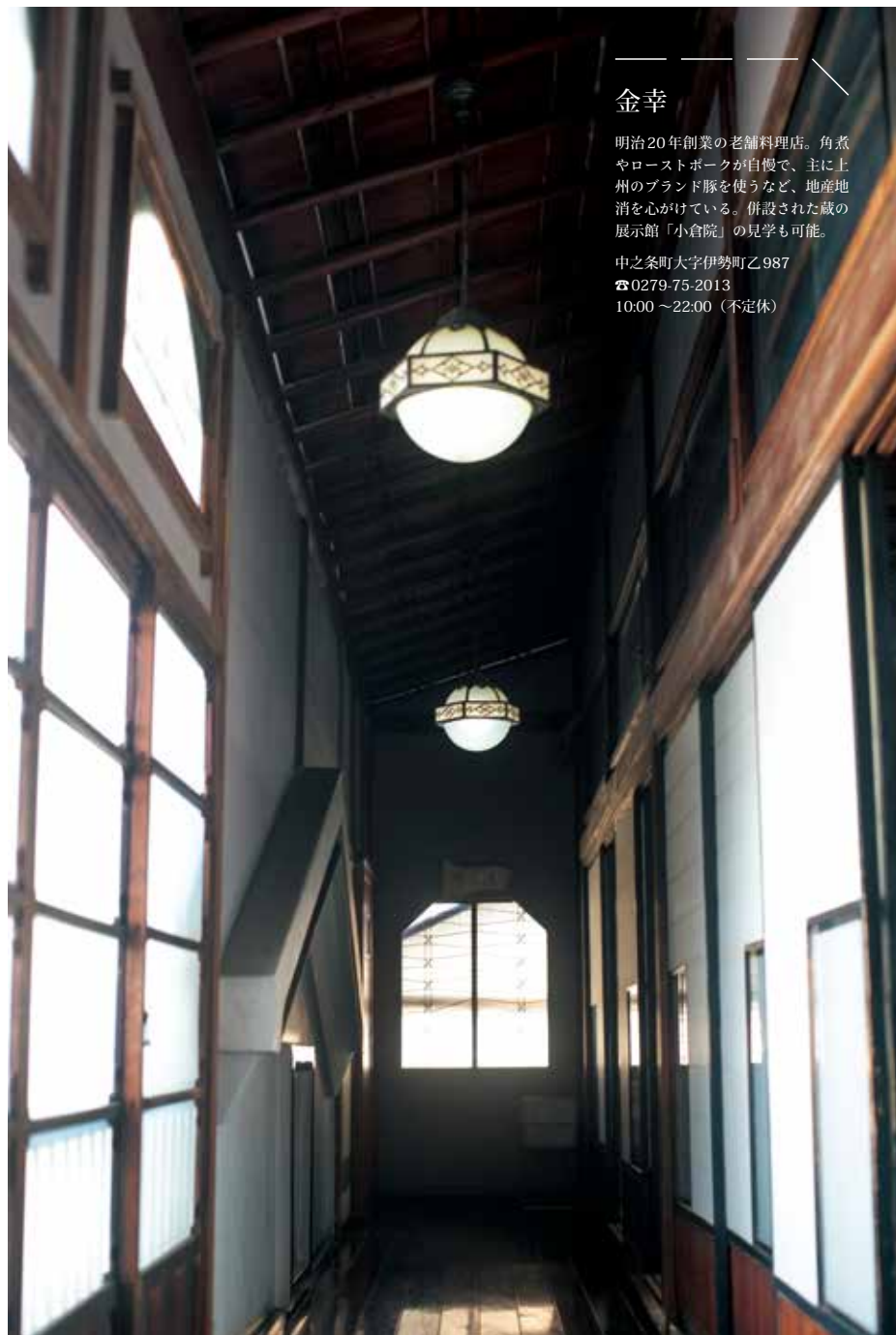
「凡人には芸術はわからない」と笑いながらも、思いついたらすぐに行動する。それは、この町のこ

とをもっと知ってほしいから。

「中之条には、温泉もあるし、花もあるし、アトもある。できれば、ゆっくり1泊して楽しんでもらえたらうれしいですね」



閑院宮様が宿泊した大広間や廊下が当時のまま残る店内。写真の部屋は元お風呂で、天井やステンドグラスはその名残り（右）。中之条は戦国武将・真田家ゆかりの地。「真田道弁当」にも、家紋の六文銭がモチーフとして使われている（左下）。



金幸

明治20年創業の老舗料理店。角煮やローストポークが自慢で、主に上州のブランド豚を使うなど、地産地消を心がけている。併設された蔵の展示館「小倉院」の見学も可能。

中之条町大字伊勢町乙987

☎0279-75-2013

10:00～22:00（不定休）

岡安 うちのかあちゃんって、ごく平均的な中之条のおばちゃんだと思っただけ、ピエンナーレがはじまって3〜4回目に自然と観にいくようになったんですよ。

古川 それだけ浸透してるって、すごいことだね。私も制作してる時、通りがかりの方に「ピエンナーレかい」って声かけられる。

岡安 継続しているからこそ、だよ。映画祭も同じで、シナリオ大賞の作品のロケ地を探している話もスムーズに進むし、エキストラで子どもが出ていって、家族みんなで見て来てくれる。

古川 人情も作品に表れる、やっぱりそれだね！ わちゃわちゃやっていると地元のおじいちゃんたちが自然に集まって手伝ってくれたりして……（笑）。そういう関わりが作品に組み込まれていって、ホワイトキューブで展示するのは全然違う、里山と人と心のふれあいから生まれるコミュニケーション



岡安賢一
Kenichi Okayasu

日本映画学校を卒業後、2004年に中之条に戻り、吾妻を中心にイベントや観光関連の広告・映像制作に携わる。2017年より、伊参スタジオ映画祭実行委員長。中之条町生まれ、在住。

山崎まさよし主演の映画「月とキャベツ」のロケ地としても知られる中之条。館内には展示ルームもあり、多くのファンが訪れる。毎年11月の映画祭では、同作をフィルムで上映するほか、若手映画作家育成のための「シナリオ大賞」も行う。

コンサート！ 命を削り合っている感覚が楽しい。

岡安 ご高齢な人が多いから、あんまり削りすぎないでね（笑）。

古川 2017年に私が展示した六合の入山集落は、動線的に開催が厳しいと言われてたんです。でも山道を抜けた先に広がる六合の魅力が絶対感じてほしかった。ボランティアさんも、回覧板とか町の放送で募ってもらって（笑）。

岡安 使えるものは全部使って。

古川 その結果、たくさんお客さんが来てくれて、みんなが喜んでくれて、とてもうれしかったなあ。

岡安 アーティストが移住してきたのも大きいよね。地のものを活かして、何ができるかを常に考えている人がいるっていうのは強みになる。今年は、映画祭をきっかけに生まれた「影踏み」や四万温泉でロケをした「まく子」といった映画も公開されるので、僕らはこの場所をもっとにぎやかに

/ 対談 /

映画とアートが、
いつもそこにある場所。

岡安賢一 × 古川葉子

伊参スタジオ映画祭 実行委員長
アーティスト

映画祭とピエンナーレ。中之条を代表するイベントに関わるお二人に、町とのつながりや、映画とアートのこれからについて話をうかがった。



伊参スタジオ 公園

群馬県人口200万人記念映画「眠る男」の制作拠点、旧町立第四中学校を撮影スタジオやロケ隊の合宿所として改修（一般の宿泊可）。2001年より伊参スタジオ映画祭を開催。

中之条町大字五反田3527-5
☎0279-75-7220 9:00～16:00
（1～3月は土日祝祭日のみ開館）

中之条の 旅みやげ



オリンピックパン店の
レトロ食パン

01

六合の幸
花いんげん煮豆



03



わしの屋酒店の
四万温泉エール

02

中屋饅頭店のきび大福



04



伝統工芸品
こんこんそうり

05

01. 着色料や保存料を使わない、ふわふわの食パンが特徴。一番人気のピーナツなど種類も豊富で、夕方には売り切れてしまうことも。希望の組み合わせを、その場で挟むこともできる。200円。〈オリンピックパン店〉☎0279-75-2408 02. 四万温泉の清らかな水でつくられたクラフトビール。ホップの華やかな香りとマイルドなコクのあるペールエール「摩耶姫」(左)が一番人気。370円。ほか期間限定のIPA「高野山」や、生姜ポーター「嘉満ヶ淵」なども。〈わしの屋酒店〉☎0279-64-2608 03. 県内一の大きさを誇る地元産の花豆を、塩と砂糖だけでシンプルに味付けした素朴な一品。お茶うけにもご飯のおともにも。各509円。〈ふるさと交流センター つむじ〉☎0279-26-3751 04. 近隣の農家をはじめ、国内産のきびを使用。外はもちもち、手づくりのつぶあんはやさしい甘さで、「甘い物は苦手でも、ここの大福だけは食べられる」という人も多い。1個140円。〈中屋饅頭店〉☎0279-66-2302 05. 「こんこん」という名は、仕上げに足先を木づちで打つ音から。スゲという草をなでてきた縄を、地域の女性たちが一つひとつ手で編んでつくられる。丈夫で通気性は抜群、色とりどりの布もかわいい。町内の道の駅などでも販売。1300円〜。〈ふるさと交流センター つむじ〉 ※価格はすべて税抜き。



にしていきたい。たとえば、いつでも映画が観られるとか。
古川 寝袋の中で観る「夜通し映画祭」なんてどう？ 楽しそう！

古川葉子

Yoko Furukawa

神奈川県生まれ。多摩美術大学美術学部彫刻学科卒業。2015年の中之条ビエンナーレに参加、翌年、六合地区に地域おこし協力隊として移住。地域おこしを彫刻に見立て制作を続けている。



六合の山から集めた木やつるなど、自然の素材を使って「空間を彫刻」する。「もともと私がやっていた木彫って、削ってマイナスにすることでふくらませていくもの。でもここに来て、自然と増殖していくほうに変わりました」と古川さん。

岡安「中之条って何が面白い？」と聞かれると、「映画祭とかビエンナーレもありますよ。で、いついつなんですけど……」って答えてしまいがち。でも、その2つはもう定着しつつあるから、いつ来ても楽しめるようになるといい。
古川 私も「いつでも作品が観られる美術館みたいなのがあったらいいな」って言われたことがある。そういうのができたらいいね。
岡安 中之条はもちろん自然がすばらしいし、アートや映画、それから人も面白い。ふらっと来ても面白い人に出会える、そんな場所がつくれたら。葉子ちゃん爆弾みたいな人ですけど(笑)、このタイミングで活動しているのは、偶然だけど必然、って気がする。
古川 六合の大きなマグネットに吸い寄せられてきた感じ。「あれは何だったんだろう？」って日々考えるんですけど、なんとなく答えは見つかりつつあるんです。

中之条 山の上庭園

200種類以上のハーブと、四季折々の高山植物が楽しめるほか、館内には地元の食材を使ったレストラン、売店やギャラリーも。ドライフラワーのアレンジメント体験なども人気。

中之条町大字入山小森口4046-2
☎0279-80-7123 9:00～17:00
(12月末～3月末まで冬季休館)



「六合の花」のブランドは市場でも高く評価され、年間200～250種類を生産する。六合で栽培されている「草花」は、かつてはバラやユリなど他の花を引き立てる添え花だったが、ここ数年、ガーデニングブームの影響などもあり人気が高まっている。



花づくりで、
町を元気にする。

「花の栽培って、平らな畑やハウスでするのが普通で、山の中なんてまずありえない。そんなところで市場が認める花づくりができていることに興味を持ちました」

もともとは、福岡で花屋を営んでいた淵上奉夫さん。花づくりをするために六合へと移住したが、当時の村長から、できたばかりの中之条山の上庭園が、お客さんが集まらず苦勞していると相談され、園長を引き受けた。

こちらの魅力のひとつは「体験」。決まった材料はなく、お客さんと話しながら作品をつくっていくため、人によってまったく違ったものができるのが特徴だ。

「体験を通して、花に対する見方や考え方が少しでも変わってくれ

たら。最初は、興味なんてなくてかまわないんです。場所柄、それほどたくさんのお客さんが来るわけじゃないから、5時間ぐらい付き合うこともありますよ」

現在は、中之条山の上庭園と中之条ガーデンズ、2つの庭を中心としたまちづくりを進めている。

「観光にも活かせるし、経済だって活性化する。そういう思いに至ったのは、生産する立場で花を見ているから。花屋のままでいたら、こうはならなかったでしょう。この年になって、これはものすごいものになるぞと感じていて」

最終的には基金を創設して、花をつくる人、そしてこの町で働く人を育てるのが目標だ。

「花をつくる姿って魅力的なんです。最近では、みんなから『先生、100歳までね』って言われて(笑)。そこまで町に貢献できたら、思い残すことはないですね」

また来るね、といって帰れる場所。

吾妻川沿いに建つ一軒家の隠れ家的レストラン、山乃気。「田舎に憧れていた」という店主の河野喜代子さんは、20年ほど前、東京からこの町に移り住んだ。

「景色もいいし、開けていて、なんてすてきな場所だろうって。もうひとつは人、いっぱいの人に助けてもらって今があるんです」

野菜や花を置いていってくれたり、お米を送ってくれたり。味噌は一度も買ったことがないというもともと、となりの建物でレストランを営んでいたが、自分ひとりでやっていけるよう、自宅を兼ねた現在のスタイルに。リニューアルにあたっては学校に通い、薬膳の基礎を学び直した。

「薬膳って、漢方を使うとか難しいとか思われがちですが、簡単にいえば地産地消。その土地の旬の

ものをいただくことなんです」看板もなく、宣伝もしなかったが、評判は口コミで徐々に広まり、今では東京など他県から足しげく通う人も多い。

「難しいことじゃなくて、来てくれた方を大切にすればいいだけ。私は、お客さまの笑顔が好き。キザだけど、みんなの心が豊かになるような場所をつくりたくて」

気兼ねなく行けて、ゆっくりごはんが食べられて、また来るねといって帰っていく。まるで自分の家のような、居心地のいい場所。「ここは、私の終の棲家。東京から来て、この町に受け入れてもらったから、今度は受け皿になりたい。みなさん居心地がいいから来てくださるんだし、来てくれるのがうれしいから私も受け入れる。お互いさますよね」



メニューは、12種類の薬草と季節の野菜や果物を使った薬膳カレー（左ページ）ほか、ローストビーフ、日替わりの3つだけ。飽きないよう前菜には力を入れていて、7品以上がずらりと並ぶ。一番人気は、あごだじと4種のチーズの茶碗蒸し。

KITCHEN STUDIO 山乃気

月のうち3週は地元の食材を使った創作料理レストラン、そのほか料理教室やリラクゼーションマッサージなどを行う。桜や水仙、菊など、窓から楽しめる四季の花々も美しい。

中之条町伊勢町5-6

☎0279-26-3002 11:30～15:00

／ディナー18:00～21:00は要予約
(ともに火・水休)



群馬四大温泉地のひとつ四万温泉や、ラムサール条約にも登録されている芳ヶ平湿原など、見どころはたくさん。旅ルミネが見つけた、とっておきのよりみちスポットをご紹介します。

よりみち中之条



07-08. 餃子がおいしい「お食事処 ゆうみん」など、レトロな町並みも魅力。日帰り可能な共同浴場も。〈四万温泉郷〉 09. 美しい山々に囲まれて、自分だけの作品づくりを。〈くれさかの森陶芸工房〉 ☎080-6542-3005 10. 江戸時代から続く老舗は、「一浴玉の肌」と伝えられる美人の湯。〈婦人風呂〉も人気。〈まるほん旅館〉 ☎0279-66-2011 11. 金幸そばの公衆トイレは、アートと間違えて訪れる人も。12-13. 最盛期は6軒あったスマートボール店も、こちらを残すのみ。名物女将ふじこさんが遊び方を丁寧に教えてくれる。〈柳屋遊技場〉 ☎0279-64-2520 14. 直径40mの「スパイラルガーデン」はじめ、薔薇の庭園など多彩な庭が。〈中之条ガーデンズ〉 ☎0279-75-7111

01. 「四万ブルー」とも称される光の加減によって変化する湖水は、ここでしか見られない絶景。新緑や紅葉も美しい。〈奥四万湖〉 02-03. 日本秘湯を守る会会員宿でもある、たんげ温泉唯一の温泉宿。樹齢300～500年の樺を使ったロビーは圧巻。露天を中心に6つのお湯が楽しめる。〈美郷館〉 ☎0279-66-2100 04-05. 中之条駅前の新たな名所。14時から営業、電車待ちの間にサッと一杯できるのもうれしい。四万温泉エール（P11）など、ご当地ビールも。〈大衆酒場 ニューサイトウ〉 ☎050-1522-1631 06. 強酸性の鉱泉が湧き出る流れの中に自生する「チャップミゴケ」。これほど広範なのは本州ではここだけ、国の天然記念物にも指定。〈チャップミゴケ公園〉

旅ルミネ

たぐるみね
TABI-LUMINE

ルミネは、魅力溢れる日本の地域とのステキな出会いをつなぐプロジェクト「旅ルミネ」を企画運営しています。

<https://www.lumine.ne.jp/kokolumine/tabilumine/>

2019年4月1日発行

発行：株式会社ルミネ
企画：株式会社ジェイアル東日本企画
株式会社リライト
デザイン：渡辺光子
写真：鍵岡龍門
編集・文：リライト_W
協力：中之条町観光協会

※本誌に掲載されている情報や価格は、2019年3月現在のものです。

EVENT

中之条のイベント



中之条ビエンナーレ

2年に一度、国内外から150組を超えるアーティストが集う芸術祭。温泉街や校舎など町内50か所以上で展示を行うほか、パフォーマンスやワークショップも多数。7回目となる2019年は、8月24日（土）～9月23日（月・祝）に開催。

Spirit and Soul / Performance: Kanoko Sugiyama, Visual installation: Haruo Higuma, Photo by Fumihito Nagai
<https://nakanajo-biennale.com/>



伊参スタジオ映画祭

「山の中の小さくて大きい映画祭」を合言葉に、2000年スタート。毎年11月後半に開催、中之条にゆかりある作品などを上映するほか、公募の「シナリオ大賞」も発表。大賞受賞作品は、町周辺をロケ地にして映像化、翌年上映される。

<https://isama-cinema.jp/>

INFORMATION

旅の情報はこちらで



* ふるさと交流センター つむじ

中央の「お祭り広場」を開くのは、地元食材を使ったカフェやお土産ショップ、足湯など。ワークショップやアートの展示も行われる町の文化や芸術が集まる場所。つむじ内にある観光協会では、地域密着型体験ツアーも多数企画している。

中之条町大字中之条町938
☎0279-26-3751 10:00～19:00（木休）
＜中之条町観光協会＞
☎0279-75-8814 8:30～17:15（無休）
<https://www.nakanajo-kanko.jp/>
<https://tabinakanajo.com/>

群馬県中之条町

Nakanajo, Gunma

群馬県北西部の吾妻郡にあり、新潟県と長野県に接する県境の町。ハイキングやキャンプが楽しめる野反湖、貴重な高山植物の宝庫・芳ヶ平など、上信越高原国立公園にも指定される豊かな自然が特徴。四万・沢渡・尻焼をはじめ9か所の温泉のほか、「中之条ビエンナーレ」などのイベントでも知られ、年間を通じて多くの観光客が訪れる。

ACCESS

車：首都圏から〈関越自動車〉渋川・伊香保IC→〈国道353号〉中之条（練馬ICから約1時間40分）
電車：東京駅から〈上越新幹線〉高崎駅→〈JR吾妻線〉中之条駅（約2時間）
高速バス：東京駅八重洲通りから約3時間、バスタ新宿から約2時間30分

